

IV-488

日立海岸における野鳥を視対象とした
生息地形態の分類に関する研究

茨城大学大学院 学生員 永田 文規
茨城大学工学部 正会員 志摩 邦雄
茨城大学工学部 正会員 小柳 武和
茨城大学工学部 正会員 山形 耕一

1. はじめに

南北約33Kmの海岸線を保有する日立海岸は、動植物の貴重な生息地となっている。また、冬でも温暖なため、多くの野鳥が越冬する。しかし、現在、海岸部には国道6号線バイパスの建設が進められており、このような海岸部の開発、整備は動植物の生息地に多大な影響を与えると考えられる。

今後は、動植物の生息地環境に配慮した開発、整備が一層求められる。また、動植物の生態系の保護と同時に、景観資源としての再認識と保護が必要とされる。そこで、本研究では、食物連鎖の上位に位置し、海岸で見られる頻度が高い野鳥に着目し、野鳥および生息地の形態を、海岸景観の一構成要素として捉える。また、野鳥の生息地は、様々な要因により成り立っており(図1)、野鳥を視対象とした海岸景観を考える場合、これら要因の中で生息地の形態を明らかにすることは大変重要である。

そこで、茨城県日立海岸を事例に以下の2点を本研究の目的とする。

- ① 海岸部における野鳥の生息地形態を明らかにする。
- ② 野鳥の生息地形態を分類し、各タイプの特徴を捉える。

2. 日立海岸の野鳥

日立海岸は、カモメ類、ウ類、カモ類などの多くの野鳥が越冬する。また、環境破壊により、食物連鎖の頂点に立つワシタカ類が減少している中、大変貴重なハヤブサも日立海岸で越冬している¹⁾。よって、渡り鳥の最盛期である11月～3月は、海岸で野鳥を目にする機会が最も多いといえる。

3. 調査概要

本研究では、日立海岸において個体数が多く、肉眼で見ることができることを条件に、ウ類、カモメ類、シギ類、チドリ類、コサギに、数は少ないが大変貴重になっているハヤブサを含め7種の野鳥を調査対象とした。ヒアリング調査は、野鳥の会茨城支部に対して行った。また、現地調査は日立海岸全域で1993.12.11～1994.1.27の延べ19日間行った。ヒアリング調査および現地調査により、7種の野鳥のほぼ全ての生息地を調査でき、生息地形態が明らかとなった。

4. 野鳥の生息地形態

調査より野鳥の生息地形態は表1のように自然地形、海岸構造物および空中に分類でき、それぞれの特徴を明らかにすることができた。

野鳥は元来濡れることを嫌う動物であるので生息地はより静かな、また周辺の環境変化が少ないところを選んでいる。

以下に、各形態の特徴を述べる。

(1) 自然地形

自然地形は、砂浜、岩礁、水面、島、海崖の5つに分類できる。

カモメ類が砂浜にいるときは、多くの場合休息している時である。よって、砂浜に激しく波が押し寄せる場合は、沖合いの穏やかな海面や、港湾内などの静穏域で休息する。久慈川河口には、1万羽を越えるカモメ類が観測されていたが、最近は減少傾向にある。

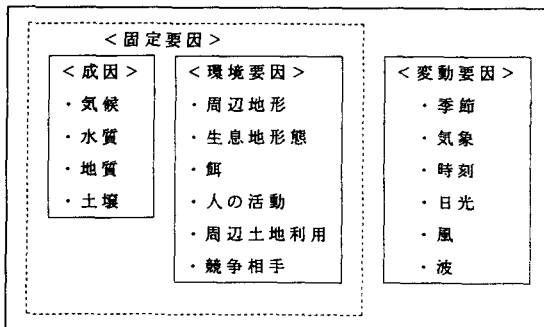


図-1 生息地の要因

ウミウを見てみると、日立市の鳥に制定されており、また、昭和50年代まで小貝浜海岸の海崖で捕獲されていて日立市民には馴染みの深い鳥である。しかし、日立海岸においてウミウの主な生息地は小貝浜海岸の二ツ島、滑川浜海岸の裸島、ぐみ島といった島や、海崖など、普段人が近づくことがない場所である。ウミウはそこで、水中に潜って餌を捕った後濡れた羽を乾かすために、羽を広げたり、休息したりする。

(2) 海岸構造物

海岸構造物は防波堤（離岸堤、突堤、防波堤）、港湾施設に分類できる。

海岸構造物にとまる野鳥も自然地形にとまる場合と同様に、人間から離れた位置にいる。その意味においても離岸堤は格好の足場となっており、カモメ類、カモ類、ウ類と種類は限られているが数多の野鳥を見ることができる。そこは、休息の場であり、餌を狙うための場所でもある。また、離岸堤の内側の静穏域は、カモ類、カモメ類にとって良好な休息地となる。野鳥にとって離岸堤は、海上の足場として利用価値が大きい。小群が舞っている。また、入港してくる漁船の後方にまた、日立港内の造成途中にできた干潟には、500羽程のカモメと数羽のチドリが羽を休めており、東の間

ので野鳥の楽園となっている。

また、島や海崖が主な生息地であるウミウが、最近では離岸堤にも多く見られるようになり、昇る太陽を背景としたり、夕日をいっぱい浴びて輝いている姿はとても美しく日立海岸の風物詩的な存在となり、人々の目を楽しませている。

(3) 空中

特に港湾上空を飛んでいるカモメ類を指し、朝夕に

表-1 生息地形態の分類および特徴

形態	海岸	地区	特徴	野鳥	数	行動	
自然地形	砂浜	・久慈浜 ・会瀬	・広く緩やかな砂浜 ・砂が細かい ・砂の湿った部分と水が浮き出ている部分の境で休息する ¹⁾	カモメ類	大群 (100~200)	休息 採餌	
		・河原子	北浜・南浜	・水際が落ち込んでいる ・砂が粗い ・波打ち際で餌をついばむ	シギ類 チドリ類 カモ類	小群 小群 小群	採餌 採餌 休息
		・日立港	第5埠頭 奥造成中	・造成中に出来上がった干潟 ・水が所々浮き上がっている ・大群で休息	カモメ類 チドリ類	大群(500) 小群	休息
	岩場	・小貝津 ・川尻	南静公園崖下 川尻北浜	・緩やかな砂浜 ・ ¹⁾	カモメ類	1か2羽	休息
		・会瀬 ・河原子	南浜 大川河口	・水際の砕石や護岸ブロック、 岩が混在している砂浜付近 を飛び歩き餌を探す。	コサギ	1か2羽	採餌
		・滑川 ・初崎	太田尻川河口 宮田川河口				
	水	・小貝浜 ・初崎 ・日立港	沖合い 沖合い 沖合い	・沖合いの静穏域で休息	カモメ類	大群 (200~300)	休息
		・小貝浜 ・滑川浜	海崖周辺 ソバナゴの浜	・近くの穏やかな海面で休息、 また、餌をとる	カモ類 ハイブリ	小群 単独	休息 採餌
		・川尻 ・折笠 ・会瀬 ・河原子	北浜 南浜 北浜	・離岸堤の内側の静穏域で大群 で休息	カモ類 カモメ類 ウ類	小群 小群 少数	休息 休息 採餌
	面	・川尻 ・会瀬 ・日立港 ・久慈川	川尻港 会瀬港 日立港・久慈 漁港	・港湾内、あるいは、導流堤の 間の静穏域で休息したり、餌 をとる	ウ類 カモメ類	少数 大群 少数	採餌 休息
		・小貝浜	鳥島	・島上部の窪地で休息したり、 餌をとる	ハヤブサ	1羽	採餌
		・小貝浜 ・滑川浜	二ツ島 裸島 くみ島	・離れ岩 ・岩肌が露出している島上部の 尾根部分にとまる	ウミウ	単独 少数	休息
海岸構造物	海崖	・滑川浜 ・国分	滑川浜北側 貼川河口南側	・海崖上部の窪地に一列になり 休息	ウミウ ヒメウ	少数 少数	休息 休息
		・川尻 ・折笠 ・会瀬 ・河原子 ・日立港	北浜 南浜 北浜 沖離岸堤	・テトラポットで形成された離 岸堤上部で休息	カモメ類 ウミウ カモ類 (河原子)	大群 小群 小群	休息 休息 休息
		・川尻	北浜	・突堤周辺のテトラポットの上部 にとまり休息	カモメ類	小群	休息
	防波堤	・会瀬 ・久慈 ・漁港	会瀬港 久慈漁港	・高さ約2m(会瀬) ・高さ約4m(久慈漁港) ・短時間とまる	カモメ類	少数	休息
		・川尻 ・会瀬	川尻港 会瀬港	・海藻が付着した船揚場の水際 で餌をとる	チドリ	小群	採餌
		・川尻 ・会瀬 ・河原子 ・日立港	川尻港 会瀬港 河原子港 久慈漁港	・小さな漁港 ・朝夕港湾上空を飛翔 ・入港する船の後方を飛翔	カモメ類	小群	飛翔

5. 結論

- ① 日立海岸における野鳥の生息地形態による分布を明らかにした。
- ② 野鳥の生息地形態を分類し、その特徴と野鳥の行動等を明らかにした。

【参考文献】

- 1) 矢吹勉他：野鳥から見た日立，流々，pp. 50-63.